

春の企画展 学びやタイムスリップ 京都の美術と学校

平成29年4月15日(土)～6月27日(火)

京都の学校には有名芸術家によって制作された作品が多く所蔵されており、まさに美術の宝庫といえます。その質の高さや量の多さは、全国に類を見ません。また明治初期から戦後の作品まで、時代も実に幅広いものが残されています。この一大コレクションは画家や所蔵家の惜しみない寄贈によるもので、約150年にわたって学校をきらびやかに飾ってきました。また、それぞれの作品には、学校に寄贈された経緯や芸術家が込めた思いなど、学校文化財ならではの興味深いエピソードも伝えられています。本展では、市立学校が所蔵する美術品の中から名品を選びすぎり、それぞれの学校にまつわるエピソードと共にご紹介することで、近代京都の美術と、それらを受容する場として機能していた学校の歴史を振り返ります。



日彰尋常小学校の講堂 明治期

見どころ

これは江戸時代に制作された「杉戸絵」です。勇猛な獅子が描かれ、金で装飾がほどこされた立派な家具で、日彰小学校が150年近く所蔵していました。でもなぜ、小学校に江戸時代の杉戸絵があったのでしょうか？実は、日彰校は明治5(1872)年に校舎を拡張移転するとき、山階宮の別邸だった建物を転用して校舎にしたのです。獅子の杉戸は、もとは宮家の邸宅を飾るためのものでした。京都における小学校建築の歴史を感じさせる一品です。



日彰校を飾った杉戸絵
伝横山清暉筆 江戸後期

夏の企画展 京都番組小学校史入門 —創設150周年へカウントダウン—

平成29年7月1日(土)～9月25日(月)

小学校が日本で最初に誕生したのが京都だったということをご存知ですか？

今から148年前の明治2(1869)年に、全国に先駆けて合計64もの小学校が京都(現在の上記区、中京区、下京区、東山区、左京区、以上5区の一部)に誕生したのです。

これらの小学校は、室町時代の町組をルーツとする「番組」を学区としたので、「番組小学校」と総称されています。番組小学校には「地域による、地域のための学校」という特徴があり、学校建築資金の多くが番組内の有志からの寄付で賄われ、学校運営資金には番組内で集められた「竈金(かまどきん)」などが用いられました。このような学校運営形態は、その姿を変えながら少なくとも昭和16(1941)年までは続きます。

このような番組小学校の歴史を学ぶための入門編が、今回の企画展で、7年ぶりの番組小学校展になります。2年後の番組小学校創設150周年に向けて、これから番組小学校のことを学びたい方、もう番組小学校のことはよく知っているけど改めて学びたい方などに、おすすめです。展示史料はどれも貴重なものばかりですが、解説は平易でわかりやすくしてありますので、小学生のみなさんも、お家の方と一緒にぜひ見学に来てください。



明治10(1878)年、上京七区小学校
(後の嘉楽尋常小学校、現在の嘉楽中学校)

明治10年頃の元番組小は、高い火の見櫓(やぐら)を備えており、嘉楽校のように公家や寺社から建築物を下附される学校もあった。嘉楽校の当時の全校生徒数は200名程。



書籍『学びやタイムスリップ』& 限定オリジナル記念グッズ発売!!



学校歴史博物館開館 20 周年（平成 30 年）、
番組小学校創設 150 周年（同 31 年）
輝かしい節目に向けて彩りを添える

我が国の教育を先導した京都の輝かしい学校史とそれを支えた市民の情熱を次代に伝える施設として平成 10 年に誕生した当館も、いよいよ来年は開館 20 周年。そして 2 年後には番組小学校創設 150 周年を迎えます。

こうした記念すべき節目に花を添える二つの取組を紹介いたします。

まずは昨年 10 月に発刊された『学びやタイムスリップ 近代京都の学校史・美術史』。平成 26 年 10 月から 28 年 3 月まで京都新聞に連載されたコラムを 1 冊にまとめており、好評を博しています（当館の特別入場券付き）。平成 18 年 6 月に発行された『京都・学校物語』から 10 年。この間の研究や資料発掘の成果にも触れていただけます。

そして今年 2 月に新しく発売した 2 種類のミュージアムグッズ。一つはオリジナルエコバック。A4 ファイルも楽に入る布製で、番組の区画図をデザインしています。もう一つは学校給食で使われた懐かしのアルマイト食器 4 点セット（リユース品）を不燃布の専用ポーチに入れたものです。番組区画図や学校給食のサンプルなどは常設展示もしており、京都の学校史を物語る品々がグッズラインアップに加わりました。

ロゴとして添えた言葉は「歴史を未来へ」。記念すべき節目を一過性のものに終わらせず、人づくりの歴史に思いをさせ、同時に、未来…子どもたちの未来、京都の未来、わが国の未来に思いをいたしてほしい。そんな願いを込めました。

当館の書籍及びグッズはホームページ（<http://kyo-gakurehaku.jp>）をご覧ください。

（事務局長（29.3.31 現在） 庄司 尚文）



書籍『学びやタイムスリップ』：1,728 円



アルマイト食器セット（4 枚 1 組・巾着付）：300 円



オリジナル限定エコバック：400 円

（価格はすべて税込）

「学校の史料の魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい！」という思いが結実して、この本が生まれました。学校は、人のものの考え方や感受性、そして未来を創る力を育む場所。特に地域の力によって支えられてきた京都の学校はユニークで、京都の過去・現在・未来を語る上で絶対に欠くことのできないとても重要な存在です。この本を通して、京都の学校のことや学校に関する史料の魅力などを、少しでも広く知ってもらえることを願っています。（学芸員 和崎 光太郎）

みなさんが通った学校には、どんな“おたから”がありましたか？京都の学校は美術品の宝庫。むかしの校舎を飾った、100 年以上前の絵画や陶磁器が今も残っています。また、京都出身の偉人が母校に寄贈した書なども大事に伝えられてきました。本書ではそうした学校のためものを紹介しています。時代を越えて伝えられた美術品を通して、「学校を華麗に飾る」京都の町衆文化を感じてみてください。（学芸員 森 光彦）





学歴博のいちにち

学歴博には赤ちゃんからおじちゃんおばあちゃん、外国からのお客様まで、毎日いろいろな方がご来館くださいます。そんな学歴博の一日をここで少しだけご紹介！

7月19日(火)

西大路地域女性会の皆様20名が来館されました。当博物館や京都における近代教育のあゆみについての概要説明のあとは展示見学。教科書の部屋・オルガンでの唱歌演奏・給食コーナーと懐かしいものが盛りだくさん。小学校のころの思い出話に花が咲きました。共通の話題で皆さんの交流や結びつきが、より一層深まったことでしょう。
(博物館主事(29.3.31現在)車田 秀樹)



7月26日(火)

タイ国の校長会の皆様24名来館。最初にこちらから「サワディ・カップ」(こんにちは)とあいさつすると、皆さんも大喜びで一度に雰囲気が和やかムードに。みなさん教育関係者として、日本の教育についての質問もたくさんいただきました。中でも「日本はどのように昔から教育熱心なのですか」という質問がありました。皆さんならどう答えられますか。
(博物館主事(29.3.31現在)車田 秀樹)



10月27日(木)

教室の恒例行事となった「お歌のプレゼント」。今年は講堂を会場として、開智幼稚園の全園児さんと保護者の皆様、教職員の方々をお招きし、楽しい歌のひとつを過ごしました。ペープサートやパネルシアターも登場して、園児さんたちは大喜び!「空を見上げて」と「月と泥棒」を受講者が歌うと、大きな拍手を贈ってくださいました。開智幼稚園の皆様、ありがとうございました!
(「初級者のための合唱教室」担当:萩原 貴子)



11月8日(火)

京都府立すばる高校企画科3年生12名が、3グループに分かれ課題研究としての新聞づくりの取材の一環として来館されました。3年間の学習のまとめとして自ら課題を設定し各所を訪問し記事にまとめ新聞を作成し情報発信に関わる企画を立案、実践を進められています。当館では番組小学校の設立に対する地域の人々の思いや、展示の工夫などを質問されました。
(博物館主事 野中 哲也)



11月15日(火)

彦根市立平田小学校6年生50名の校外学習です。学校からは彦根城が望めるとのこと。彦根は幕末の大老井伊直弼公のお膝下だけあって、「幕末の動乱と京都」の話を身近な歴史として熱心に聞いてくれました。あとは「たんけんノート」による調べ学習や石盤体験学習です。学校を離れてのいつもの学習に、心ワクワクのひと時でした。京都の学校だけでなく、他府県からも学習の場として活用していただけるのをお待ちしております。
(博物館主事(29.3.31現在)車田 秀樹)



11月17日(木)

高雄中学校全校生徒がグループに分かれ、京都市内の人権ゆかりの地を巡るフィールドワークを行われました。その内2グループが来館されました。第一展示室において解説の後、各自が熱心に見学して、地域の人々の思いや番組小学校設立当時の子どもの勉強の様子などについて質問され、人権を守ることと教育は切り離せない大切なものであることを学ばれました。
(博物館主事 野中 哲也)



12月6日(火)

唐橋小学校3年生90名は昔の学校について学習するために来館されました。まず、講堂で昔の学校についてのお話を聞かれました。その後、「たんけんノートで第1展示室の展示物について調べる」、「開智教育資料室を中心に館内で昔さがし」、「石盤石筆を使って昔の文字に挑戦」の3つの活動を行われました。どの活動も児童にとっては初めて目にする事、体験することが多く、意欲的に学習を進められていました。
(博物館主事 野中 哲也)



歓迎! 団体観覧

お客さまの人数・目的・学年などのニーズに合わせて、オリジナルの団体観覧メニューをご提案します。



学歴博には
【英語版】解説書も
あるんだよ!





年間予定 平成 29 (2017) 年度

詳細は、当館ウェブサイト、チラシ、市民しんぶんなどで順次お知らせします。

学校歴史博物館

検索

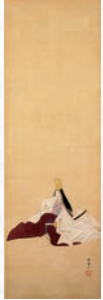
展 示

収蔵品展 3月18日(土)~4月11日(火)

このひと どんなひと?
—学校を飾った人物画—

企画展 4月15日(土)~6月27日(火)

学びやタイムスリップ 京都の美術と学校



竹内栖鳳 虞美人草
大正 9年 京都市学校歴史博物館蔵

上村松園 静御前 (組内画家記念揮毫屏風のうち)
大正 7年 元竹筒小学校蔵

企画展 7月1日(土)~9月25日(月)

京都番組小学校史入門
—創設 150 周年へカウントダウン—

企画展 9月30日(土)~12月12日(火)

学校の博物学(仮)

企画展 12月16日(土)~平成30年4月15日(日)

近代日本の道徳教育(仮)

催 し

子ども体験教室
小学生対象

夏休み!子ども体験教室

明治の小学校 書写教室
博物館たんけんたい
おもちゃの手作り教室
にほん画に挑戦!

冬休み!親子体験教室

親子で頑張るに挑戦!(仮)
※小学生と保護者対象

春休み!子ども体験教室

詳細未定 ※日時・詳細はHPにて随時更新

6月13日(日)午後2時~3時30分

近代京都画壇と学区

—学校を飾った人物画—

講師:森 光彦(当館学芸員)

7月9日(日)午後2時~3時30分

「幕末維新期の京都と教育」

講師:小林 丈広(同志社大学文学部教授)

7月29日(土)午前10時~11時

貴重映像上映会

「むかしの子どもを動画で見よう!」

講師:濱口 十四郎(NPO法人 京都の文化を映像で記録する会 理事長)

和崎 光太郎(当館学芸員)

9月23日(日)午後2時~3時30分

「明治時代の小学校」

講師:和崎 光太郎(当館学芸員)

企画展関連講演会

教室・講座(一般対象)

第3[火]午後2時~3時(8月を除く)

上村淳之館長談話室

[月]午後2時~4時

唱歌・童話教室

[火]午前10時~12時30分

日本画教室(火曜・午前)

[火]午後2時~4時30分

日本画教室(火曜・午後)

[木]午後2時~4時

楽しい混声合唱教室

[金]午前10時~11時30分

古文書を読む

※年3回開講(9月・11月・2月)

[金]午後2時~4時

描いてみよう!日本画

2月頃開催予定

日本刺繍教室

京都市学校歴史博物館

〒600-8044

京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町437

TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327

http://kyo-gakurehaku.jp/

☒ rekihaku-jigyou@edu.city.kyoto.jp

当館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる博物館です。正門・石塀は、国登録有形文化財。



京都市学校歴史博物館

Kyoto Municipal Museum of School History

開館時間 午前9時 - 午後5時(入館は4時30分まで)

休館日 水曜日(祝日の場合は翌平日), 12月28日 - 1月4日

入館料 一般200円(160円), 小・中・高生100円(80円)

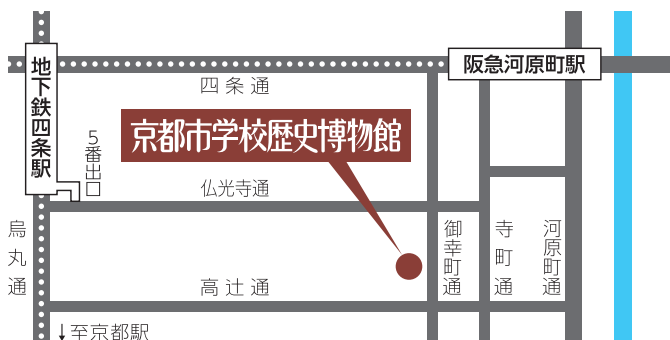
※()内は20名以上の団体料金

※京都市内の小・中学生は土・日曜日の入館無料

交通案内

- ◆ 阪急電車「河原町」下車 徒歩約10分 10番出口より南西へ
 - ◆ 地下鉄烏丸線「四条」下車 徒歩約12分 5番出口より東へ
 - ◆ 京阪電車「祇園四条」下車 徒歩約15分 3番出口より南西へ
 - ◆ 市バス「四条河原町」下車 徒歩約10分 南西へ
 - ◆ 市バス「河原町松原」下車 徒歩約5分 北西へ
- ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

関西から



※正門(御幸町通側)からお入り下さい。

正誤表

1 面

・夏の企画展 写真キャプション

明治 10 (1878) 年

↓

明治 10 (**1877**) 年

4 面

・催し 企画展関連講演会

6 月 13 日 (日)

近代京都画壇と学区——学校を飾った人物画——

↓

6 月 18 日 (日)

近代京都画壇と学区

9 月 23 日 (日) 「明治時代の小学校」

↓

9 月 23 日 (**土・祝**) 「明治時代の小学校」